

平和の光輝ける

(昭和六年寮歌)

広瀬英三君 作歌

金景洙君 作曲

一

平和の光輝ける
春まだ浅き曙に
綾なす紫雲を分け出でて
彩色られ行く青春の
久遠の迷夢を求めつつ
声高らかに歌はなん

二

陽光燦然乱れ入る
夏の窓辺に書よめば
寮庭に年経るアカシヤの
床しき薫香漂ひて
いつか心懐の極みなく
蝦夷の昔にいたる哉

三

秋も闌け行く北溟の州
白楊の華乱れとぶ
聖き都に寂寥の
静かに迫る此の夕べ
思索の迫を恵ぬれば
榆林に鐘はなり響く

四

馬櫓の鈴の音も絶えし
雪の大路を歩みつつ
声をかぎりに寮歌うたふ
凍れるものみな揺かして
星斗は高く冴ゆる夜の
大空のかなたへ消えて行く

五

高き「理想」と「純情」に
たぎる生命を託しつつ
憧れ集ふ若人の
情熱のかがり火打ち囲み
月下に酌むや楡の宴
いざや謳歌へん記念祭